

# 天草フィールドワークにおける古文書調査の記録

荒武賢一郎

## はじめに

2年間の天草フィールドワークでは、近世および近代の古文書調査がひとつの柱となった。天草市、上天草市、苓北町には現在に至るまで数多くの文書史料がたくさん残されている。限られた時間のなかで、そのすべてを実見することは困難だが、可能な範囲で調査を実施した。また、フィールドワークの関連調査として、鹿児島県長島町、阿久根市の古文書についても閲覧する機会を得た。

## 1 天草に関する古文書調査と研究

天草の古文書調査とその研究は、戦前から地元の郷土史家、さらには九州大学九州文化史研究所（現・九州大学附属図書館附設記録資料館九州文化史資料部門）の設立に尽力された長沼賢海氏をはじめとする島外の歴史研究者によって進められた。その成果は、数多くの著作によって紹介されている。

戦後、九州大学に寄贈された石本家文書（御領）の整理作業を皮切りに、近年では本戸組大庄屋であった木山家文書、高浜組大庄屋の上田家文書など、全国的にみても重要かつ膨大な点数を誇る文書群の調査・整理・研究が行われている。いずれもそれぞれの調査にあたられた九州大学や天草史料調査会、熊本県教育委員会によって目録化され、天草の歴史に関心を持つ研究者の間で有効な利用がなされている。また、2005年に実施された熊本県歴史資料調査は、県内各地における歴史資料の存在を網羅し、我々の古文書調査も大きな恩恵を受けた。

## 2 天草フィールドワーク古文書調査のねらい

天草の古文書調査と研究は、鶴田文史氏など地元の研究者や、天草市立天草アーカイブズなどの史料保存機関によって、現在も丹念な作業が行われている。そのなかで、我々が果たすべき課題とは何かを考えた結果、いくつかの目標を立てることから始めることにした。それは、①これまで調査が及んでいない古文書、②調査に着手されている古文書でもその既存データを参照しながら目録の拡充を図る、③現状の把握と所在確認（どこに何があるのか、何が残っているのか）を行い、我々以外の研究者との情報の共有に努める、の3点である。

### 3 調査の実施

〈2010年度〉

その基本方針のもと、初年度は文書所蔵者および天草市教育委員会、苓北町教育委員会の協力によって、以下の文書群の調査を実施した。

- ◇サンタ・マリア館所蔵文書…天草内外のキリシタン関係 (86点)
- ◇苓北町郷土資料館所蔵文書…内田村・年柄村・富岡町各庄屋文書、大坂屋文書  
など (約500点)
- ◇苓北町内寺社関係文書…国照寺・鎮道寺・瑞林寺・志岐八幡宮の各所蔵文書 (約300点)
- ◇苓北町漁業協同組合所蔵文書…中元家文書 (弁指・漁業関係、41点)
- ◇神崎家文書…修験道関係など11点
- ◇上田家文書 (天草ロザリオ館保管分)…年貢・村入用関係帳簿、書状類 (950点)  
(~11年度継続)
- \*石本家文書…写真撮影 (於：九州大学 ~11年度継続)

2010年度は調査開始段階であり、目標②のこれまで概要調査が完了している文書を中心に実見した。特徴として挙げられるのは、サンタ・マリア館が長年収集されてきたキリシタン関係の史料、そして寺院や神社、村方に関する文書を調査したことである。

天草の歴史といえばキリシタンに注目されることが多く、我々が最初イメージしていたのもそうだった。浜崎献作館長のご配慮で、サンタ・マリア館のキリシタン関係の原史料を直接閲覧することができ

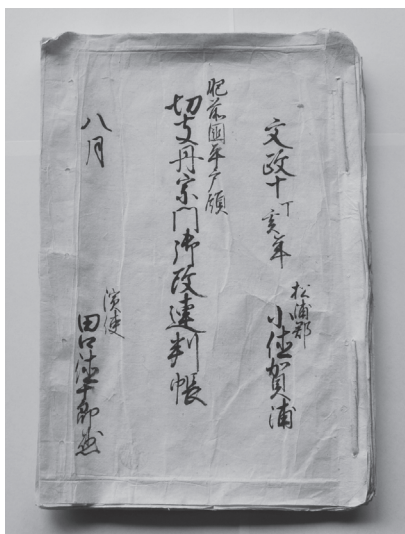


写真1 肥前国松浦郡小値賀浦の宗門改帳 表紙 (サンタ・マリア館所蔵文書33)

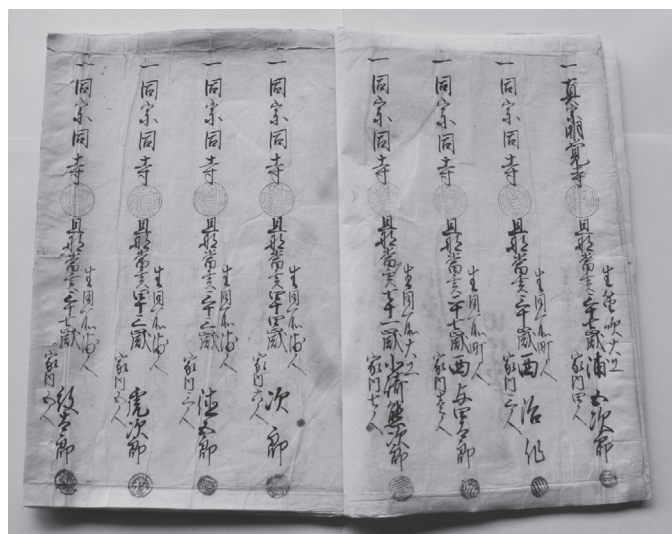


写真2 宗門改帳の内容の一部 (写真1と同じ史料)

たのは、調査の出発点として重要な意味を持っている。加えて、同館では天草以外のキリシタン史料も所蔵されており、天草を含む西海地域の歴史的経過を学ぶこともできた。

一方、寺院や神社の古文書について知りたいと考えたのは、右に挙げた「天草＝キリシタン」の印象が深い当地の仏教や神道にはどのような歴史が刻まれているのだろうか、という好奇心であった。それら寺社文書を中心に、苓北町域の調査では比較的点数が少ないながらも地域にとっては重要な情報が含まれている史料をデジタルカメラで撮影している。

高浜の上田家文書はすでに大部分の調査が終了しており、精緻な目録も刊行されている。調査の終わっている古文書は、所蔵先である上田家資料館において閲覧が可能となっているが、その後新たに発見された追加分を天草市立天草ロザリオ館が管理されていた。そこで、この追加分の整理・写真撮影・目録化の作業を実施した。当初の予想以上に多くの史料があったため、2011年度までの継続作業となっている。

江戸時代後期に天草の豪商として名を馳せた石本家文書については、九州大学の協力を得て約500点に及ぶ史料の撮影を行うことができた。これも次年度まで継続して調査を実施した。

#### 〈2011年度〉

- ◇森家文書…天草市御所浦、庄屋（約150点）
- ◇鶴岡耕三郎氏所蔵文書…天草市御所浦（嵐口）西山家文書（海運・漁業、280点）
- ◇野崎昭一氏所蔵文書…天草市御所浦、昭和戦前期の村長日記（15点）
- ◇御所浦町誌編纂室所蔵文書…天草市御所浦、公文書や関係文書のコピー（20点）
- ◇牛深八幡宮文書…天草市牛深町宮崎（約50点）
- ◇脇津屋文書…天草市牛深町船津、岩崎宝七氏所蔵、幕末・明治の海運（75点）
- ◇天草市立天草コレジヨ館所蔵文書…近世の唐船漂着記録など（10点）
- ◇吉田家文書…上天草市大矢野、大庄屋・砥石山経営（約100点）
- \*長島町歴史民俗資料館所蔵文書…長野家文書（945点）ほか村方文書
- \*河南文書…阿久根市立郷土資料館所蔵、商家関係（約20点）

2年目は、前年からの上田家文書・石本家文書に加え、天草市の牛深、御所浦両地区を中心に調査を進めることになった。これは、フィールドワーク全体の方針を1年目の天草中央部を広域的に調べていくという流れから、いくつかの調査拠点を設けて集中的に分析を深めようと切り替えたことが背景にある。両地区ともに天草のなかでも特徴的な由緒を有し、現在も漁業を主たる産業としながら展開している。しかし、最近においては古文書調査が積極的に行われておらず、まずは現状確認を目的としながら、できるだけ所在を明らかにするよう心がけた。

調査対象となった古文書は、これまでの調査で所在が明らかにされていなかったもの、あるいは合併前の町史編纂以降に新たに発見されたものなどが含まれており、我々のみならず今後の地域研究へとつながる第一歩になる成果を挙げたといえよう。

天草市立天草コレジヨ館では、常設展示の古文書を調査する機会を得た。同館は旧河浦町にあり、こ

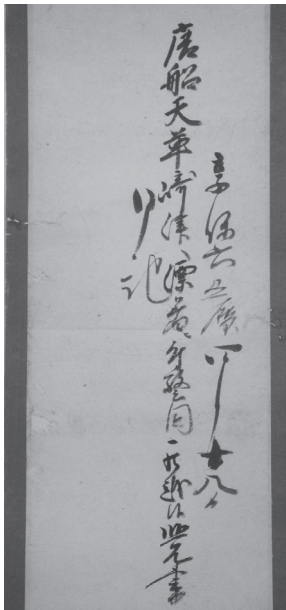


写真3 唐船の崎津漂着に関する覚書  
(天草コレジヨ館所蔵文書)

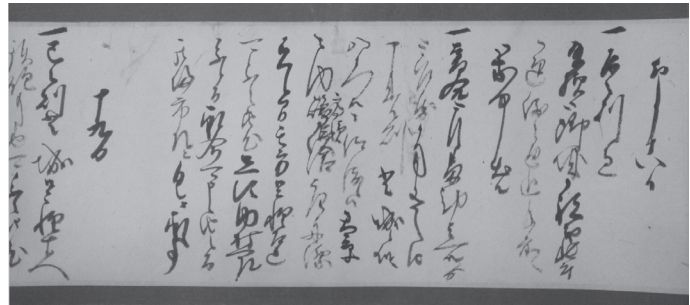


写真4 唐船漂着時の記録  
(写真3と同じ史料)

の地域の文化発信施設としても位置づけられるが、近世天草の特質でもある中国船の漂着に関する史料や当地の村方文書などを撮影した。

天草の近隣地域でも重要な史料を閲覧することができた。2011年フィールドワークの最初の訪問地、鹿児島県長島町では歴史民俗資料館で保管されるさまざまな古文書を閲覧し、そのひとつとして長野家文書を全点調査することになった。また、鹿児島県阿久根市でも中国から渡ってきた由緒を持つ河南家の史料を閲覧できた。これも天草を含む西海地域の歴史的理解を行う上で意義ある仕事であった。

### おわりに

古文書調査による具体的成果は、前著『天草諸島の文化交渉学研究』および本書にて研究と史料紹介を行っている。ただし、すべての史料を紹介することができておらず、今後の研究の進展が待たれるところである。その点では不十分と言わざるを得ないが、我々が調査に取り組む際に掲げた目標はある程度のところまで達成できたように考えている。本書とは別に、調査済み史料の文書目録、および写真データを所蔵者各位、そして教育委員会など公的機関に提供する予定で、今後の天草研究の一助になれば幸いである。